府立渋谷高等学校
校長　佐々木　里佳

令和７年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

本校は創立 108 年の歴史の中で、地域に親しまれ地域で活躍する人材を数多く輩出してきた。
生徒一人ひとりと丁寧に向き合い、確かな学びをサポートして、社会に貢献する生徒を育成する学校をめざす。

１．多様な進路を志す生徒の夢をかなえるため、確かな学力の育成を通して、飽くなき向上心と柔軟な自己教育力を持った生徒を育てる。
２．生徒指導に力点を置き、基本的生活習慣の確立と規範意識の向上に努め、将来の社会人として自立できるよう生徒を育成する。
３．生徒が互いを認め合い、多様な人々と協働して物事を成し遂げるなど、持てる力を最大限に発揮できる安全で安心な教育環境を構築する。
４．生徒一人ひとりが自信と希望を持って学校生活を送るよう、学校行事や部活動をはじめ、「成功体験」を感じることができるような教育活動を展開する。
５．地域に支えられてきた本校のたたずまいを大切に、学校情報の発信に努め、家庭や地域住民、中学校や大学との連携を深め、地域に本校の応援団となっていただけるよう、開かれた学校づくり、社会に開かれた教育課程を進める。

２　中期的目標

１　確かな学力の育成
（１）「わかる授業・できる授業」をめざした学びの充実の取り組み
ア　「主体的・対話的で深い学び」や、指導と評価の一体化に基づいた観点別評価を実践するために、授業改善に向けた教員研修、研究授業、情報共有の充実に努める。
イ　１人１台端末やタブレット、プロジェクタ等のＩＣＴ機器等を活用した授業充実を進めると共に、オンライン授業の実践継続にも努める。
ウ　教科ごとに指導と評価の一体化を意識して、学習の到達目標と達成へのプロセスを示した学習指導計画を策定し、生徒が目標をもって授業に取り組む姿勢を育成する。
※授業アンケート中の授業に対する評価に占める肯定的回答の割合を、令和９年度に 86%をめざす。（Ｒ４：82%　R5：85%　R6：83%）
※学校教育自己診断で、「本校は１人１台端末やＩＣＴ機器を効果的に使っている。」と回答する生徒の割合を、令和９年度まで 90 %以上維持。
（Ｒ４：74.9%　R5： 92.1%　R６： 93.3%）
※学校教育自己診断で、「学習指導計画について各教科でよく話し合っている。」と回答する教職員の割合を、令和９年度に 80 %以上をめざす。
（Ｒ４：77.8%　R5：92.3%　R６：77.8% ）

（２）積極的な進路選択のための確かな学力の育成
ア　「総合的な探究の時間」を教育活動の柱として充実させると共に、教科横断的な取組み、思考を重視した問題解決的な指導の実践など、生徒の進路実現に応えるよう、確かな学力の育成を図る。
イ　教育産業による基礎学力検査、漢字検定などの各種検定試験等の校内実施や対策を行い、積極的な進路選択のための、確かな学力の育成を支援する。
※外部検定試験での受検者数と合格率を、令和９年度にのべ 300 名、平均 40%をめざす。
（R4：漢検 210 名 19%、英検 208 名 17%　計 418 名 18%　　R5 :漢検 251 名 26 %　英検 36 名 47% 計 287 名 平均 36.5%
R6： 漢検 252 名 13.5%、英検 20 名 95% 平均 54.3%）

２　生徒の進路実現の支援
（１）進路実績の向上
ア　10 年先の人生プランを想起させ、３年間を見通した進路計画のもと、キャリア教育の充実や進学講習等の進路指導体制を確立し、進路希望実現 100%をめざす。
※国公立や難関・中堅８私大へ、令和９年度に 20 名以上の現役合格をめざす。（Ｒ４：６名　R5：20 名　R６： ９名）
※学校教育自己診断で、「将来の進路や生き方について考える機会がある」と回答する生徒の割合を、令和９年度に 86%をめざす。（Ｒ４：85%　R5：84.2%　R６：84.4%）

３　生徒の活動の活性化と働き方改革、基本的生活習慣の確立及び規範意識の醸成
（１）教科指導や「総合的な探究の時間」の指導に加えて、特別活動、部活動、生徒会活動を通した成功体験による自己肯定感の育成
ア　教科指導やクラス活動等で、多様な他者と協働する機会を積極的に創出し、興味関心を同じくする集団での目標達成に向けた活動を充実させ、生徒の活動の幅を広げる。
※学校教育自己診断で、「渋谷高校にきてよかった。」と回答する生徒の割合を、令和９年度に 84%をめざす。（Ｒ４：81.5%　R5：82.4%　R6：82.9%）
※学校教育自己診断で、生徒の学校行事満足度を、令和９年度まで 89%を維持。（Ｒ４：84%　R5：89%　R6：90.1% ）

（２）生徒の基本的生活習慣の確立、規範意識の醸成、課題を抱えた生徒への支援体制の強化
ア　生徒にマナーとルールに関する意識を徹底し、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
イ　不登校生徒や様々な困難を抱える生徒に対して、保護者や中学校、関係機関等と緊密な連携を図ると共に、ＳＣやＳＳＷ等と連携して教育相談・支援体制を充実させる。
ウ　お互いを認め合い、尊重し、支え合う人間関係づくりを通して、安全で安心な教育環境を構築する。
※学校教育自己診断で、「本校の指導は適切で納得できる」と回答する生徒の割合を、令和９年度に 63%をめざす。（Ｒ４：52.1%　R5 ：58.3%　R6：59.8%）
※学校教育自己診断で、「担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる」と回答する生徒の割合を、令和９年度に 70%をめざす。（Ｒ４：64%　R5：65.9% R6：67.9%）

４　地域連携の推進
（１）ホームページ等を通じた教育活動についての積極的発信、地域社会の一員としての地域の様々な取組みへの参加・貢献
ア　ホームページや学校説明会・中学校訪問を通して渋谷高校の教育内容の広報に努め、「行ける学校」から「行きたい学校」づくりをめざす。
イ　メールマガジンの充実に努め、教育活動について保護者との連携を強化する。
ウ　近隣の小・中学校や関係機関・団体との連携をさらに深めつつ、教科指導やボランティア活動、生徒会、部活動等での地域行事への参加を進める。
※学校教育自己診断で、「教育活動を通して地域の人々と関わる機会がある」と回答する生徒の割合を、令和９年度まで 60%以上維持。（Ｒ４：52% R5：62%　R6：63.4%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和　　年　　月実施分］	学校運営協議会からの意見

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標［R６年度値］	自己評価
確かな学力の育成	⑴ 学びの充実 ア 授業改善に向けた情報共有・授業研究・研修の充実 イ ＩＣＴ機器の活用とオンライン授業 ウ 授業に取り組む姿勢の育成 ⑵ 確かな学力の育成 ア 教育実践の充実 イ 検定試験の活用	⑴ ア ・校内での授業見学や他校視察を行い、「主体的で対話的な深い学び」や、指導と評価の一体化に基づいた観点別評価の授業実践を図る。 イ ・ＩＣＴ機器を活用した授業の充実を図ると共にオンライン授業の実践も継続する。 ウ ・学習の到達目標と達成へのプロセスを生徒に示し、生徒が目標をもって授業に取り組む姿勢を育成するとともに、予習・復習など家庭学習の習慣づけを図る。 ⑵ ア ・「総合的な探究の時間」を柱とした教育実践の充実。 イ ・各種検定の受験を促し、対策を実施することで、資格取得生徒を増やし、積極的な進路選択のための、確かな学力の育成を支援する。	⑴ ア ・校内外での授業見学に、９割の教員の参加維持。［9 割］ ・授業アンケートの評価に占める肯定的回答の増加。［83%］ ・生徒の学校教育自己診断で「授業はわかりやすい」80%以上維持。［80.6%］ ・授業改善や評価方法をテーマに、学期に１回は情報共有の機会をもつ。［年３回］ イ ・１人１台端末等活用した授業実践の情報を共有する機会を、年２回もつ。［２回］ ・休校時等ではオンライン発信を常態化する。 ウ ・生徒の学校教育自己診断で「目標をもって授業に臨んでいる」73%以上［70.5%］ ・１年生対象に base in Osaka を家庭学習で積極的に活用するよう促す。生徒の学校教育自己診断で「家庭での学習時間１時間以上」の増加。［23%］ ⑵ ア ・「総合的な探究の時間」を３か年計画通りに実践し年度末に総括の機会をもち、改善する。［1 回］ ・教職員の学校教育自己診断で、「自分は、思考を重視した問題解決的な学習指導を行っている。」75%維持 ［75.0%］ イ ・各種検定の受験者数と合格率の増加。［漢検 252 名 13.5% 英検 20 名 95% ］	
進路実現の支援	⑴ 進路実績の向上 ア 進路実現率の向上	⑴ ア ・３年間を見通した進路指導計画を策定すると共に、「総合的な探究の時間」やＬＨＲで、キャリア学習を実践する。 ・個人懇談の充実を図り、個に応じた進路相談や進路指導で意欲の活性化につなげる。 ・自習室を組織的に活用する。 ・国公立や関西８私大現役合格	⑴ ア ・「総合的な探究の時間」等でキャリア教育を柱とした実践を、１・２年生共各 10 時間維持。［１年・12 時間、２年・10 時間］ ・生徒の学校教育自己診断で「将来の進路や生き方を考える機会がある」85%以上。［84.4%］ ・自習室を活用する指導を全学年で行う。 ・第一希望への合格率 90%以上。［89%］ ・国公立や難関中堅８大学へ 10 以上合格。［9 名］	
生徒の活動の活性化と働き方改革、基本的生活習慣の確立、安心安全な教育環境の構築	⑴ 成功体験による自己肯定感の育成 ア 生徒の活動の活性化と働き方改革 ⑵ 基本的生活習慣の確立と課題を抱えた生徒の支援体制強化 ア 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成 イ 関係機関との連携と相談・支援体制の充実 ウ 安全・安心な教育環境の構築	⑴ ア ・部活動の入部促進、成果に対する支援、校内披露、対外広報に努める。 ・体育祭、文化祭等の生徒会行事への主体的な参加を促進する。 ・学校部活動方針(休養日等)の順守及び全校一斉退庁日の順守を推進する。 ⑵ ア ・基本的生活習慣の基礎として、遅刻指導に引き続き取り組む。 ・指導方針を生徒と共有し、学校をあげて規範意識を醸成する。 イ ・様々な困難を抱える生徒等の対応は、保護者の理解を得て、関係教員が連携を密に進める。 ・ＳＣやＳＳＷ、外部専門機関との連携も積極的に進め、“チーム学校”として対応する。 ウ ・ＬＨＲ、特別活動を通して、お互いを認めあい、支え合う人間関係づくりを進める。	⑴ ・体験入部を継続し、部加入率 60%以上維持。［60.0%］ ・生徒の学校教育自己診断で「部活動は楽しい」70%以上。［69.5%］ ・ホームページの部活動ニュースの更新 20 回以上。［26 回］ ・生徒の学校教育自己診断で「学校行事満足度」85%以上維持。［90.1%］ ・全校一斉退庁日の実施割合の増加。［67%］ ・時間外在校等時間の全教員の平均減少。［36.7ｈ］ ⑵ ア ・遅刻数年間数の減少［2152 件］ ・PTA や地域と連携し交通安全指導を充実させる。年３回実施 ・生徒の学校教育自己診断で「本校の指導は納得できる」60%以上。［59.8%］ イ ・多様な生徒のケース会議を重ね、チームで対応した事例を、年に５回共有する。［年 17 回］ ・ＳＮＳにおけるトラブル、性教育、合理的配慮など、関係部署で定期的に情報共有を図る。 ・生徒の学校教育自己診断で「担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる」66%以上。［67.9%］ ウ ・生徒の学校教育自己診断で「学校で、人権の大切さについて学ぶ機会がある」80%以上維持［84.2%］ ・安全安心・いじめ等、各種アンケートの結果の分析・対応を継続する。	
地域連携の推進	⑴ 積極的な情報発信と地域の取組みへの参加・貢献 ア 情報発信の充実 イ 保護者との連携強化 ウ 地域連携の推進	⑴ ア ・ホームページ、学校説明会や中学校訪問等を通じて積極的な広報活動・情報発信を行う。 イ ・ホームページやメールマガジン等の充実。 ウ ・生徒会・部活動等による地域行事への参加など地域への貢献を一層進める。	⑴ ア ・ブログの発信回数 100 回以上。［100 回］ ・中学校や塾等の訪問のべ 230 校以上維持。［230 校］ ・渋高だよりを７号発行。［7 号］ イ ・保護者の学校教育自己診断で「学校からの情報はメールマガジンや HP 等を通じて把握している」77%以上。［78.4%］ ウ ・生徒会や部活動、ボランティアによる地域行事への参加 10 回以上、参加数のべ 200 名以上維持。［30 回、437 名］ ・生徒の学校教育自己診断で「教育活動を通じて地域の人々と関わる機会がある」60%以上維持［63.4%］	